

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501969		
法人名	有限会社 札幌福祉サービス		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条6丁目1番25号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170501969-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のある中で、利用者本位のサービスを提供できるように、常に利用者の要望及びご家族様等の要望を実践し、またより良い生活ができるように、スタッフ一人一人が意識して利用者として接し、日々のモニタリングにて介護計画への反映、サービスの改善・向上に繋がるように努めている。

町内のサロン、茶会等に参加し地域の住民との交流を図り、ホームの理解を深めていただけるように働きかけを行っているが、本年も新型コロナウイルス感染症の影響により、交流は中止している。その為、ホームない行事を増やし、充実した生活が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市内の閑静な住宅地にある2階建て1ユニットの民家改築型のグループホームである。隣に園芸センターの緑地があり、周辺に公園も多く、緑が豊富で季節を感じられる自然環境である。バス停やコンビニエンスストアも比較的近く、利便性が高い。建物は家庭的で温かみのある雰囲気、室内の各所に植物を飾り、庭の木々も整えている。感染症の流行により外出が難しくなる中、感染対策を行いながら、牧場や演奏会の見物、花見など外出行事を設定している。散歩や買い物、花壇づくりなど日常的に外で楽しめる機会も多い。家族への情報提供の面では、定期的に発行する「いこい便り」に利用者の様々な表情の写真を載せ、また、利用者の様子も記して家族に提供している。また、毎月の会議では、業務分担や業務の見直しについて活発な意見交換があり、職員意見を運営に反映している。ケアマネジメントの面では、計画見直し時に全職員が計画の評価を行い、意見を集約して介護計画を作成している。計画目標を意識した記録の作成も行われている。生活支援の面では、一人ひとりの能力に応じた排泄の自立支援、希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめる支援が提供されている。家庭的できめ細かな支援のもと、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常日頃より職員が理念を念頭に置くよう努め、常に利用者本位のケアが出来るよう心掛けている。	基本理念に「地域交流と貢献」の項目があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念として確立している。基本理念を玄関や食堂に掲示し、会議等で定期的に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のサロン・茶会に参加し、地域との交流に心掛けている。また地域の清掃行事等に参加をしている。今年は一度、公園での演奏会が開催され、参加できた。	町内の支え合い委員会のメンバーとして地域と関わりを持っている。地域で行われた屋外の演奏会に利用者と共に参加している。以前は近くの保育園児とも交流があり、感染症収束後の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて町内会サロン等での機会が無かった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で書面会議で行っており、ホーム内の入居状況、事故等、ホーム内行事等を発信し、必要があれば助言等を頂くようにしている。	現在は2か月ごとの書面による開催となっている。地域包括支援センターや介護予防センター職員、地域住民、消防団、利用者家族などがメンバーとなり、外部評価や感染症対策、年間行事などをテーマに設定し、資料を郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区の管理者会議に参加していたが、コロナ禍で中止のままになっている。生活保護の入居者について必要時、区の担当者で連絡を行っている。	役所の担当者からはメール等で情報提供を受けている。介護認定や生活保護に関する手続きの件で必要に応じて連絡している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、身体拘束適正化委員会を定時開催し、職員間で共有できるように努めている。今現在は拘束行為は行っておらず三原則を満たしていない場合は拘束はしない。	禁止の対象となる具体的な行為を記した「身体拘束に関する指針」があり、年4回の委員会や内部研修で禁止事項を確認している。玄関の内扉を日中も施錠しているが、利用者の外出希望があれば同行し、閉塞感を感じさせないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員が定例の会議等において、虐待行為、不適切ケアを意識し、利用者の身体の痣等、身体上の変化にも常に注意を払っており、虐待防止及び不適切ケアの防止に努めている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とする方に活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等を基に契約時に丁寧に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化により、契約解除に至る場合には、ご家族の他、本人を交えて対応方針を十分に相談している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様本人の希望やご家族より意見、要望を頂き、また、面会時には気楽に要望等を頂けるような雰囲気作りに努め、出された意向等には、ミーティング等で話し合い、反映している	家族の来訪時に意見を聞き、共有している。家族とのやりとりを記録するノートを新たに作成しており、今後記載を充実させる意向である。年に4回、全体の頁と個人の頁がある「いこい便り」を作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、職員会議の他、日常会話の中等、様々な機会に職員の意見や提案を聞き、職場環境の向上や介護の質の向上に繋げている。	月1回の会議で、業務分担や業務の見直しなど職員同士、活発に意見交換している。管理者は仕事の合間に職員と個別の話し合いの機会を持っている。職員は防災や室内装飾の係を分担したり、行事を輪番で担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法、安全法を守った労働条件や健康診断を行っている。職員の資格取得に向けた支援も行っている。また勤務時間内容も現状に合わせ職員に負担の内容に見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にてサービスの技術・質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区内グループホームの合同研修会等や地域ケア連絡会等に参加し、学んだ事や感じた事等を職員会議の中で報告している。また、認知症についての相談会にも参加し、他施設の事例等を話し合うことでケアの質の向上に繋げている。本年も中止となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人にお会いし、生活状況や要望、不安を把握するよう努め、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を大切にし、家族の要望や不安等傾聴する機会を作り、サービスに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや状況等を確認し、医療機関や担当のケアマネージャーとも連携し、より良い生活づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯、洗濯物干し、テーブル拭き、食品の盛り付け、掃除等のお手伝いして頂ける事は参加頂き、感謝の意を伝え、充実感を感じて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の同行、付近の散歩のご協力等のご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、一部制限した上でご家族やご友人等の面会時は楽しく過ぎて頂けるよう配慮している。ご要望のある時には、要望に添えるよう努めている。	感染症流行により知人等の来訪は少ないが、知人からの手紙が来る利用者もあり、返事を出す際は手伝う旨を伝えている。ケアプランに買い物支援を組み込んでいる利用者もあり、支援している。通院時に街並みを見る機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその日の状態や利用者同士の関係に配慮し、必要に応じて席順を変えたり、職員が間に入り会話を促したりすることで、気兼ねなく交流していただけるよう努めている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報の関係上、退去後の情報を把握するのは難しいが、家族等の依頼等があれば、ご希望に添えるようにフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関わりの中で、言葉や行動、表情で思いや意向を理解するよう努めると共に、ご家族からも情報を得るように努めている。	半分以上の利用者が言葉で思いや意向を表現でき、難しい場合も問いかけの反応などから把握している。アセスメントシートに趣味・嗜好の欄を設けているが、記載は少ない。	アセスメントシートの趣味・嗜好の欄について、記載例などを示しながら記載方法を確立し、充実することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、関係者から聴き取るようにし、生活歴や病歴など、情報収集に努め介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の行動や動作から生活リズムを把握し、個々の力を伸ばして行けるよう努めている。日々変化する状態も見逃さないよう努めている。また毎月の会議・カンファレンスにて評価を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変化している利用者の体調や状態を敏感に察知し、随時、その時の状況に応じた対応、計画作成を行っている。医療機関とも連携し、素早く対応、計画に入れることができるように努めている。	介護計画を4か月ごとに見直し作成している。職員全員が評価を行って担当者がモニタリング表を作成し、話し合いを経て計画を更新している。日々の記録は目標番号を記載しながら計画を意識した記録を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄、入浴等の日々の様子や発言内容を記録し、現状に即した計画となるよう随時見直している。また、記録は全員が閲覧し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の精神状況や行動に合わせた柔軟な対応を行い、食事についても要望に応じ個別に食材を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在も新型コロナウイルスの影響で交流を中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望を取り入れ、希望のかかりつけ医がある方には、受診して頂いている。また、必要な情報の提供等を行っている。	提携医療機関による2週に1回の往診があり、全員が受診している。歯科医の往診もある。その他の通院は原則家族対応となっている。受診内容を利用者ごとの「診療受診記録」に記載し共有している。	

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に利用者の身体状況を伝え、相談している。また、利用者への注意事項を記録し、全職員が共有するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	適切な治療を受け、早期退院に結び付くよう、ご家族や医療機関との情報交換に努めている。その際の利用者の情報を職員が共有するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時に対応できるようにご家族を交えて医師と話し合う体制が出来ている。	利用開始時に「医療連携体制の確保と重度化・看取り対応指針について」を説明し、捺印を受けている。実際に重度化した場合は協力医と相談し入院となる場合がほとんどで、過去に事業所での看取りは経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議等でも話し合い、対応できるようにしているが、実習について今後充実するよていである。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在も新型コロナウイルスの影響で職員や入居者だけの訓練としている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。感染症流行前は消防署や地域の消防団の協力も得ていた。一方、最近では職員の救急救命訓練を行っておらず、地震等への対応の話し合いも十分といえない。	職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。また、防災マニュアルを参考に、地震発生時の具体的な対応について確認しておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣等や排泄等についてもプライバシーを確保し、日々の会話においても人格を尊重するように接している。	人格の尊重を入職時研修や毎月の会議、身体拘束の勉強会で学んでいる。日常ケアでは一人ひとりのペースを大事にして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やしぐさ等からも、その方の思いを汲み取れるよう努めている。本人の希望により日常の過ごし方を決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちを汲み体調を優先し、有意義で個性のある支援となるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の認知度の状況により出来る限り衣類の選択、希望に添えるよう働き掛けを行っている。季節や気温に応じた衣替えをしている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや食べる力等を把握し、美味しく召し上がっていただくため、個々に応じた料理の形状で提供している。また、利用者様の要望にも添える食材を提供している。	食事の準備や後片付けなど利用者ができる範囲で手伝い、誕生会やおやつレク、鍋レクなども行っている。検食等で少なくとも職員1名が同じ食事をとることを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量をチェック表にて確認している。また摂取量の低下等については随時主治医と相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力を考慮し、自立の方へは声掛けを行い実施して頂き、必要な方には介助し口腔ケアを行っている。また毎週の訪問歯科にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやパットは必要な方のみ使用し、トイレ誘導等個々の排泄パターンに合わせてケアしている。	利用者の多くが自分のペースでトイレ排泄を継続している。職員は排泄記録や状況を把握しており、排泄介助では声かけやトイレ誘導をして気持ちよく排泄できる支援を行い、衛生用品の使用も減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便状況や体調に合わせ、下剤等の適宜分量の調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の気分や体調に合わせ、曜日や時間帯を希望に合わせて入浴を実施し、意思を尊重して行っている。	浴室には手すりや福祉用具を備え、利用者の入浴習慣や希望を取り入れて週2回の入浴を実施している。利用者との楽しい会話や入浴剤の使用、入浴後のノンアルコールビールの提供など気分転換を図る工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度に注意し、布団類の調節を行い安眠できるように配慮している。また、利用者が状態により居室で昼寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に処方薬の情報を添付し、いつでも確認できるようにしている。処方薬の変更や追加があればすべて記録し、職員全員が内容を把握できるよう体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器洗い、一部の掃除、洗濯、レクでは各種ゲーム、トランプ、カラオケ等、個々の気分や体調に応じて、生きがい、楽しみが持てるよう支援をしている。		

グループホーム いこいの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出の機会も一部、本人の体調等を見ながら実現できるようにしている。また定期的に買い物レクとしてスーパーへ職員付き添いにて買い物の機会を提供をしているが、本人が希望されない事が多い。	感染症予防に留意して花見や紅葉見物、牧場への外出を行っている。天気の良い日には車椅子利用者も近隣の園芸センターや住宅街の散歩に出かけ、顔馴染みの方と挨拶を交わし、季節感ある景色を楽しんでいる。施設の玄関前には花壇を作り、ベンチを置いて外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、金銭を管理している。買い物外出等、お金を使える機会があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご家族、大切な人に電話したり、ご家族からの電話があれば、ご本人に代わって頂き、会話を楽しんで頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の随所に手すりや滑り止めを設置し、安全に生活して頂けるよう努めている。春夏秋は庭先に鉢植えを置き色とりどりの花々を利用者様が楽しめるようにしている。室内においても一部観葉植物を設置している。	施設内には多くの窓があり、一日中陽が差し込んで明るい。利用者は広大な園芸センターの四季や地域の様子を楽しみ、交流ある保育園児には手を振り楽しんでいる。共用空間には手すり設置や階段の滑り止めを施工して、安全に留意している。廊下には季節感ある装飾品や写真を貼り、利用者や家族に好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、利用者同士が楽しく談笑できるよう見守り、必要があれば間に入り、ストレスなく過して頂けるよう配慮している。好きな時に居室で過して頂いたり本人らしい生活が出来るよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真、ぬいぐるみ、仏壇や遺影等を持ち込んで頂き、その方らしい馴染みのある部屋作りが出来るよう支援している。	利用者の動線に配慮して使い慣れた家具を置き、思い出の小物や家族写真を貼っている。位牌のお世話など、今までの生活習慣を継続できるように利用者や家族と相談して支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けにて自分の居室で洗濯物干し、掃除機掛け等自立して過して頂けるよう働きかけを行っている。センサー等も導入し、事故等への安全性にも配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム いこいの家

作成日：令和 4年 12月 11日

市町村受理日：令和 4年 12月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートの趣味・嗜好の欄について、記載が少なく活用されていない。	アセスメントシートを適切に記載できるようにする。	アセスメントシートの書式を全面的に見直し。記載・活用しやすいものに変更する。	1カ月
2	35	職員が救急救命講習を受講できていない。地震発生時の具体的な対応について周知徹底されていない。	職員が救急蘇生法や応急処置を身に付け、いつでも対応可能な状況にしておく。また地震発生時の対応についても訓練通り行動できるようにする。	救急救命講習、またそれに準ずる研修等に参加し、一定のスキルを身につける。地震対応については時間帯別行動手順を作成し周知徹底を計る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。